

第2回国連E S C A Pダイアログ会合の結果について

平成9年4月16日

調 査 国 際 室

- 1 日 時 平成9年3月31日(月)～4月2日(水)
- 2 場 所 インド・バンガロール
- 3 出席者 (科学技術庁) 海野 調査国際室国際第一係長
(日本) (宇宙開発事業団) 高松 調査国際部調査役
- 4 参加国等 中国、インド、インドネシア、日本、パキスタン、韓国、タイ、E S C A P (国連アジア太平洋経済社会委員会)
* 議長：インド、副議長：韓国
ホスト機関：インド宇宙研究機関 (I S R O)
- 5 経 緯
- (1) E S C A P事務局では、アジア太平洋地域における各種宇宙協力イニシアチブを調整するための作業を進めており、このため3回のダイアログ会合を計画した。第1回の会合は、本年1月20日～22日に中国・北京で開催された。
- (2) その結果、各種宇宙協力イニシアチブのハーモナイゼーションの推進を図るために、国際協力プログラムの洗い出しを行うことに各国が合意した。今次会合は、各国が当該協力プログラムを紹介するとともに、3回の会合の後に創設が計画されているダイアログ・フォーラムの詳細について議論することを目的としていた。

6 当方の基本方針

基本的なスタンスとして、以下の諸点を主張した。

- (1) マルチでの国際協力プログラムとして、宇宙開発事業団で検討を進めているリモートセンシングデータ・ネットワークの構築構想について紹介し、実施する場合はR E S A P（アジア太平洋における持続可能な発展のための地域宇宙応用プログラム）の作業部会で検討を進めていくことが望ましいと考えている旨提案した。
- (2) ダイアログ・フォーラムの設置については、趣旨・形態等の明確化を求めるとともに、会合の増加による人的資源の分散を極力回避するために、既存の会合と同時期に開催することが合理的である旨主張した。

7 結果概要

- (1) 国際協力プログラムとして、当方からの提案のほか、タイから ①地理情報データベースとネットワーク ②小型多目的衛星 (SMMS) についての説明があった。このうち②については、AP-MCSTA (アジア太平洋宇宙技術応用多国間協力) において推進されていることから国際協力プログラムとしては取り上げないこととした。一方、当方から紹介した宇宙開発事業団のリモートセンシングデータ・ネットワークの構築構想については、各国から賛意が示された。
- (2) 当該ネットワークの構築を検討するに当たり、ESCAPよりタイからの提案及び ESCAPが行ったアジア太平洋地域地球科学情報ネットワーク (ESINAP) を考慮すべきであるとの意見があり、またインドよりネットワークは災害管理、天然資源管理等を優先的な応用分野として考えるべきであるとの指摘があった。さらに、当該ネットワークを構築する場合には、日本が先導的な役割を果たすとともに、関心国の専門家からの支援を得つつ進捗状況を次回会合で報告することが提案された。
- (3) ハーモナイゼーションのプロセスを容易にするため、次回会合において、主な宇宙協力イニシアチブ (APRSAF及びAP-MCSTAにおける活動) について、その活動状況を報告することが要請された。
- (4) ダイアログ・フォーラムの創設の目的を明確化するよう要請したところ、ネットワーク構想にみられるように、個別の協力プログラムの中には調整すべき項目があり、その調整を当該フォーラムにおいて行うとの説明が事務局よりあった。

ダイアログ・フォーラムのメカニズムとして以下の3案が提案されたが、今次会合では合意には至らなかった。

- ① ESCAPの中立的な傘のもとで、各種宇宙協力イニシアチブと共通のアジェンダで新たな組織を形成する。
- ② 既存の特定 (単一) の宇宙協力イニシアチブにおける会合と同一の時期・場所において、ESCAPのもとに組織されるダイアログ・フォーラムを開催する。
- ③ 複数の宇宙協力イニシアチブにおける会合と同一の時期・場所において、独自のアジェンダのもとにダイアログ・フォーラムを開催する。

ESCAP事務局がこれらのオプションに関するコンセプトペーパーを準備し、各国に回覧し、第3回会合においてさらに議論されることとなった。

- (5) 第3回ダイアログ会合は、タイがホスト国となり、同国北部 (おそらくチェンマイ) で、11月末又は12月上旬頃に開催されることとなった。